

Vol.21

〈発行日〉
令和3年1月1日

松下ゆきよし



県政活動レポート

発行責任者／愛媛県議会議員 松下行吉 連絡先／〒791-2141 伊予郡砥部町岩谷口135 TEL (089) 969-3605



新年おめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。

昨年は、東京オリンピック・パラリンピックや、本県開催の日本スポーツマスターズなど大型イベントへの期待に胸躍らせて始まりましたが、新型コロナウイルスの出現でこれまで経験したことがないような二年となっていました。11月からは第三波の襲来を実感させるほどの感染の広がりとなりましたが、二方世界ではワクチン実用化のニュースが流れ、コロナ禍を克服する兆しも見えてきました。

今年が明るい一年となることを願って、新春号の表紙は子どもの城からとべ動物園へジップラインに乗って飛び出す夢にしました。砥部町と松山市にまたがる区域にえひめこどもの城、とべ動物園、県立総合運動公園が隣接しています。3施設を合わせた面積は100畝超。丘陵地の豊かな森と緑の空間の中に児童館や陸上競技場などの施設が集まる四国屈指のスポーツ・レジャーゾーンです。3月のジップラインオープンと合わせて、3施設の魅力向上イベントがスタートします。

(イラスト提供…愛媛県子育て支援課)

うれしきにはつ夢いふてしまいきり

子規(明治26年)

「こどもの城」「とべ動物園」 「総合運動公園」の連携

ジップラインの整備を機に、隣接する3施設でエリア全体の通称、ロゴマーク、共通活動テーマを設定して一体的な魅力発信に取り組みます。

エリアの通称

とべワンダーフォレスト(略称:とべもり)

活動テーマ

愛顔つながるアドベンチャーゾーン

ロゴマーク

エリアの象徴となるジップライン、とべ動物園のホッキョクグマピース、こどもの城の塔、総合運動公園の陸上トラックをデザイン化。



ジップラインのグランドオープン関連事業(令和3年3月予定)

関連事業

1

松丸亮吾氏が監修する 謎解き挑戦ラリー



松丸 亮吾 (まつまる りょうご)

タレント、クリエイター。平成7(1995)年生まれ。現在『おはスタ』(テレビ東京系列)では、「ひらめき王子松丸くん」として活動している。東京大学工学部に在学中。

関連事業

2

とべ動物園のゾウ舎を会場に/ 県内の若手アーティスト石村嘉成氏の 本格アート展開催



石村 嘉成 (いしむら よしなり)

作家。平成6(1994)年生まれ。2歳で自閉症による発達障害と判明。平成24(2012)年から版画や油絵を始め、才能を開花。翌年には第2回エコールドバリ、浮世・絵展 ドローイングコンクールにて、優秀賞を受賞。

ジップラインの概要



スタート・ゴールデッキ等の位置

特徴

1

日本有数となる全長約730m(四国最大スケール)のジップライン。

特徴

2

2本のワイヤーで、2人同時に並走可能。

特徴

3

こどもの城から池の上空を渡ってとべ動物園に着地するダイナミックなコース。

とべワンダーフォレスト



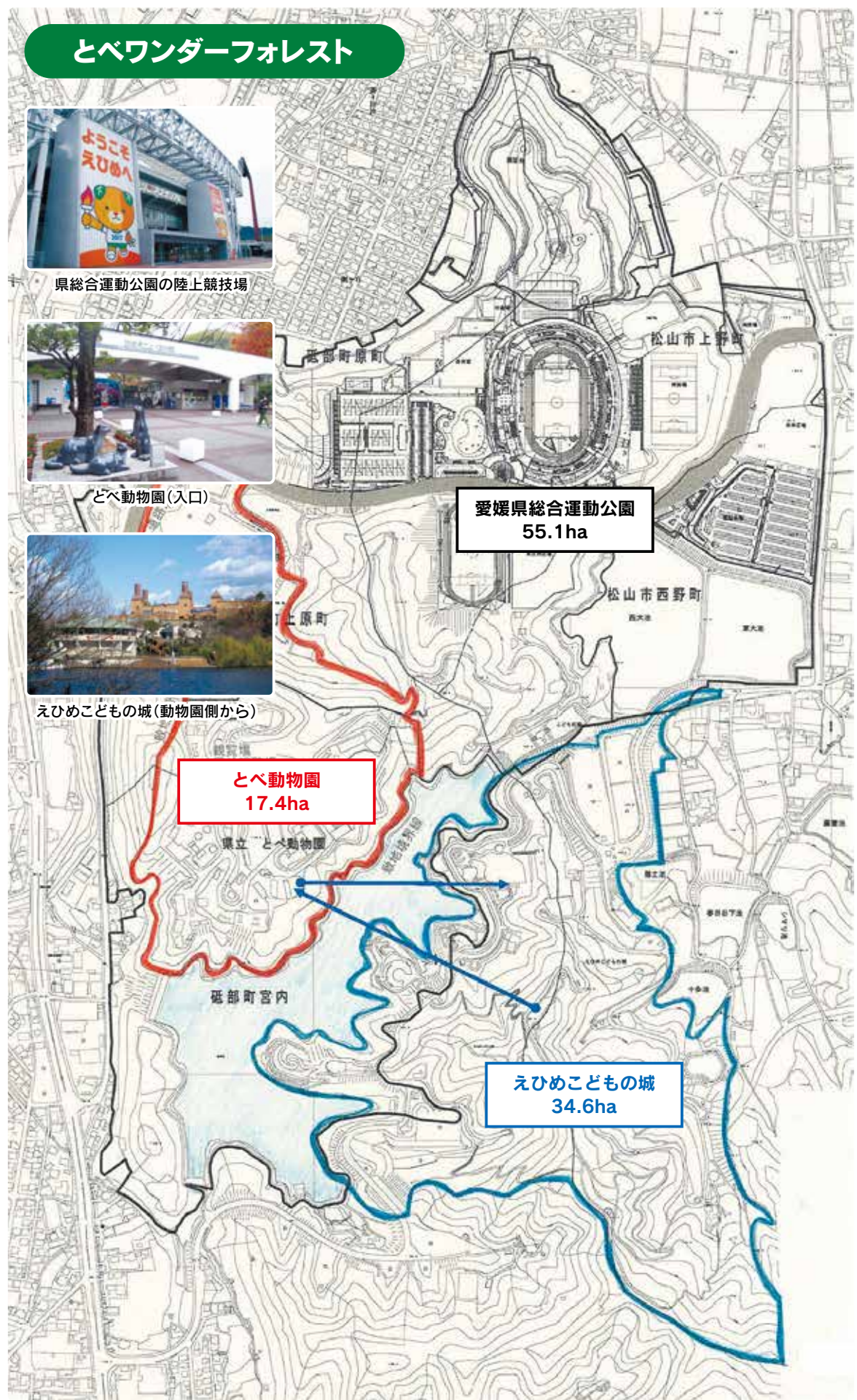
県総合運動公園の陸上競技場



とべ動物園(入口)



えひめこどもの城(動物園側から)



愛媛県総合運動公園
55.1ha

とべ動物園
17.4ha

えひめこどもの城
34.6ha

8月28日安倍首相の辞意表明、9月16日菅首相の誕生。11月に入ってからからは、新型コロナウイルス感染拡大が顕著になるなど目まぐるしい動きがありました。新型コロナウイルスの感染者は、世界中で増加の二途をたどっています。国内は10月頃まで比較的少人数で推移し、混乱はありませんでした。ただ、当初から秋以降確実に第三波が襲って来るとみられており、対策が急がれていました。

愛媛県でも、第三波を想定して感染拡大を防ぐため8月6日臨時会、9月定例会、12月定例会に対策予算を計上。予算は12月議会の補正予算までで累計1,115億1,185万円に上ります。

臨時会（8月6日）

理事者提出の新型コロナウイルス対策事業を盛り込んだ一般、企業両会計で168億9,426万円の8月補正予算など4議案を審議。常任委員会審査を経て、原案可決しました。主な事業は、表1のとおり。

9月定例会

9月11日に開会した9月定例会県議会（第371回）は、一般会計補正予算など21議案を原案可決し、10月6日に閉会しました。可決議案は、条例5、補正予算2、人事2、意見書4、その他8です。そのほかに財政健全化法に基づく令和元年度県財政の健全化判断比率など8件の報告がありました。主なものは次のとおりです。

また、四国電力伊方原発敷地内で、

【表1】8月補正予算の主な事業

1 感染拡大と医療崩壊を防ぐ	11億6,178万円
・保健所における患者搬送用車両の整備と衛生環境研究所の検査機器の拡充	1億 699万円 など
2 地域経済を立て直す	68億6,649万円
・中小企業者の新しいビジネススタイルの定着に向けた設備導入への支援	21億4,000万円 など
3 新しい生活・ビジネス・文化のスタイルを実践する	88億6,599万円
・県立学校にパソコンの児童生徒1人1台端末や電子黒板等の配備	20億1,426万円
・県立学校や総合教育センターの感染リスク低減に向けた衛生環境の整備	20億8,845万円 など

【表2】9月補正予算の主な事業

1 新型コロナウイルス感染症への対応	97億 493万円
(1) 医療・検査体制等の充実	74億6,478万円
・県内6医療圏域におけるドライブスルー方式などによるPCR検査体制の構築	1億9,200万円
・医療従事者等応援手当金の支給や感染症患者の受入病床確保（下半期分）	67億 584万円 など
(2) 新たな事業展開と生活維持への支援	22億4,015万円
・生活福祉資金の特例措置による生活を維持するための貸付け	22億円 など
2 西日本豪雨災害等への対応と防災・減災対策の推進	43億5,464万円
(1) 西日本豪雨災害等への対応	9億5,784万円
・市道の災害復旧事業等の受託による早期復旧等に向けた支援	4億5,890万円 など
(2) 県単独緊急防災・減災対策事業	33億9,680万円
・河川の氾濫を防止する河床掘削の推進	10億1,440万円 など
3 当面する課題への対応	22億1,862万円
・令和4年のプロ野球オールスターゲーム開催に向けた機運醸成	965万円
・市町の事務負担軽減を図るための健診予約システム等の機能向上《国保特別会計》	5,234万円 など

使用済み核燃料を保管する乾式貯蔵施設設置への県議会の反対を求める請願など3件を不採択としました。

(1) 条例

暴力団事務所の開設・運営禁止区域の拡大などを盛り込んだ「県暴力団排除条例の改正」など5条例を可決しました。

(2) 補正予算

一般会計162億2,585万円、国民健康保険事業特別会計5,234万円の増額予算です。主な事業は、表2のとおり。

(3) 人事

任期満了に伴い県教育委員に元砥部小学校校長の峯本陽子氏（62歳、松前町）と、

県立高等学校評議員の山内満子氏(53歳、宇和島市)の両氏を新任しました。

(4) 意見書

私立高等学校におけるICT環境の整備に係る補助制度の創設や、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の継続拡充などを国に要望しました。

12月定例会

12月定例会県議会(第372回)は11月26日から12月14日までの19日間の会期で開催され、条例5、補正予算4、人事2、意見書3、その他14の28議案を原案可決、新型コロナウイルスの検査拡充などを求める請願5件を不採択としました。そのほかに交通事故の損害賠償額決定の専決処分報告1件がありました。

議会最終日には、2月の今治市長選への出馬を表明している徳永繁樹副議長(自民)の議員辞職願を許可。同日、空席となった副議長の選挙が行われました。選挙の結果、愛媛維新の会の兵頭竜氏(3期、西予市選挙区)が26票(投票総数46票)で新副議長に選出されました。

(1) 条例

職員の期末手当を減額改定するため給与条例の改正や、こどもの城に整備するジップラインの利用料金(限度額2、

500円)を追加することの城管理条例の改正などです。

(2) 補正予算

補正予算は、一般会計が51億6,501万円の増額、企業会計は(3会計合わせて)7,312万円の減額予算です。企業会計は、職員給与の減額改定分のみ。一般会計は、新型コロナウイルス感染への対応に54億9,622万円、令和2年7月豪雨への対応など当面必要とする経費9,683万円と、給与改定による特別職と一般職の給与4億2,804万円の減額を計上しています。概要を、表3、4にまとめました。

(3) 人事

県土地収用委員会委員2名の選任に同意しました。

(4) 意見書(3件)

- ▶ 北朝鮮による全ての拉致被害者等の即時一括帰国の実現を求める意見書
- ▶ 地方たばこ税を分煙環境の整備に活用できる制度の整備を求める意見書
- ▶ 台湾のWHOへのオブザーバー参加に向け、関係各国・地域と連携し、WHOに対する働きかけを強化するよう国に求める意見書

(5) その他

主なものは、次の通りです。

【表3】12月補正予算の主な事業

1 新型コロナウイルス感染症への対応	54億 9,622万円
・感染症患者の受入病床確保に係る国補助基準額の引上げへの対応	18億 3,575万円
・生活福祉資金の特例措置による生活を維持するための貸付け	36億 4,300万円
2 当面措置を必要とする経費	9,683万円
・令和2年7月豪雨で被災したJR内子線の災害復旧支援	4,575万円
	など

【表4】12月補正予算 給与改定経費

1 一般職 ▲4億9,797万円
(一般会計 ▲4億2,491万円/企業会計 ▲7,306万円)

区分	職員数	予算額
一般会計	2万1,543人	▲4億2,491万円
一般職員	4,222人	▲8,905万円
警察職員	2,875人	▲5,966万円
学校職員	1万1,705人	▲2億6,404万円
会計年度任用職員	2,741人	▲1,216万円
企業会計	2,707人	▲7,306万円
一般職員	2,066人	▲6,393万円
会計年度任用職員	641人	▲913万円

2 特別職 ▲319万円
(一般会計 ▲313万円/企業会計 ▲6万円)

- ① 財産の取得
県立学校の学習用端末(27,844台)を15億5,100万円で、電子黒板機能付きプロジェクター(538セット)を3億8,500万円で、いずれも四国通建(株)から買入れます。
- ② 松山東警察署庁舎新築工事請負契約の締結

- 請負金額 27億1,700万円
落札率92.3%
- 請負人 熊谷・宮黒川共同企業体
- 工期 令和5年1月末まで
- ③ 令和3年度の当せん金付証券(宝くじ)の発売限度額(128億7,100万円)の決定。
- ④ 土木建設工事の負担金額の決定
- ⑤ 継続審査となっていた令和元年度決算4件の認定

愛媛県の新型コロナウイルス感染状況

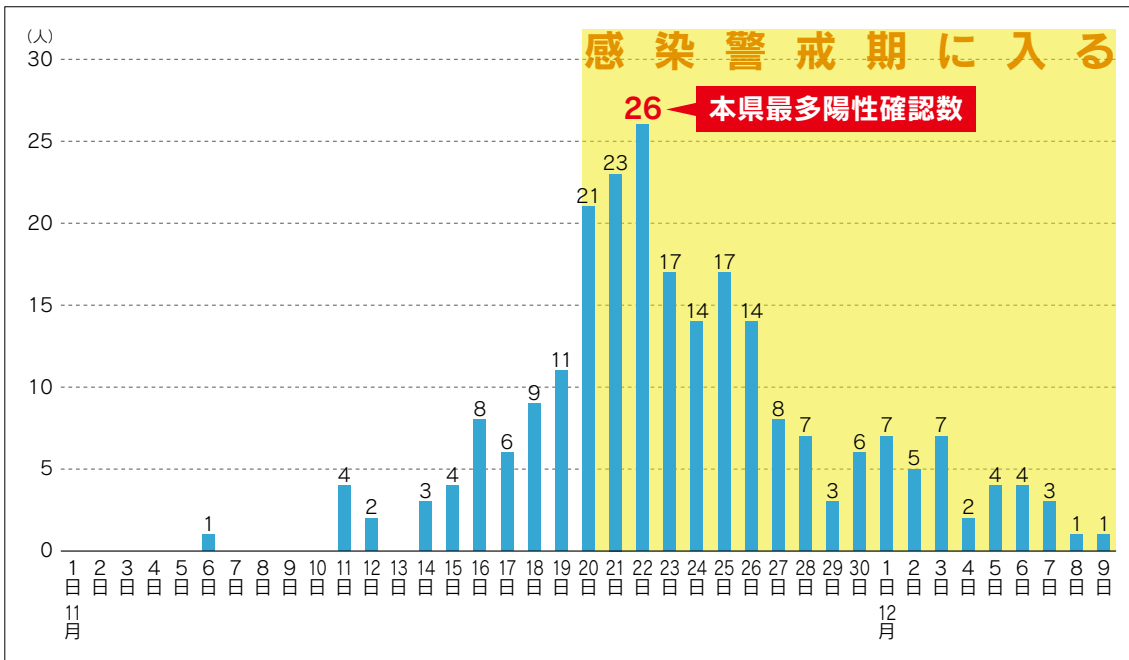
世界中で新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。12月13日現在、世界全体の累計感染者が7,154万人、死者は160万人を超えました。日本国内にも第三波が襲来。特に東京、大阪など大都市圏は感染経路が分からない、市中感染がまん延し始めている状況です。

愛媛県内でも11月に入って感染者が始め、中旬にはクラスターの発生もあって大幅に増加。県では、11月20日から警戒レベルを感染警戒期(注1)に引き上げました。22日には、一日の感染者が過去最大の26人になっています。

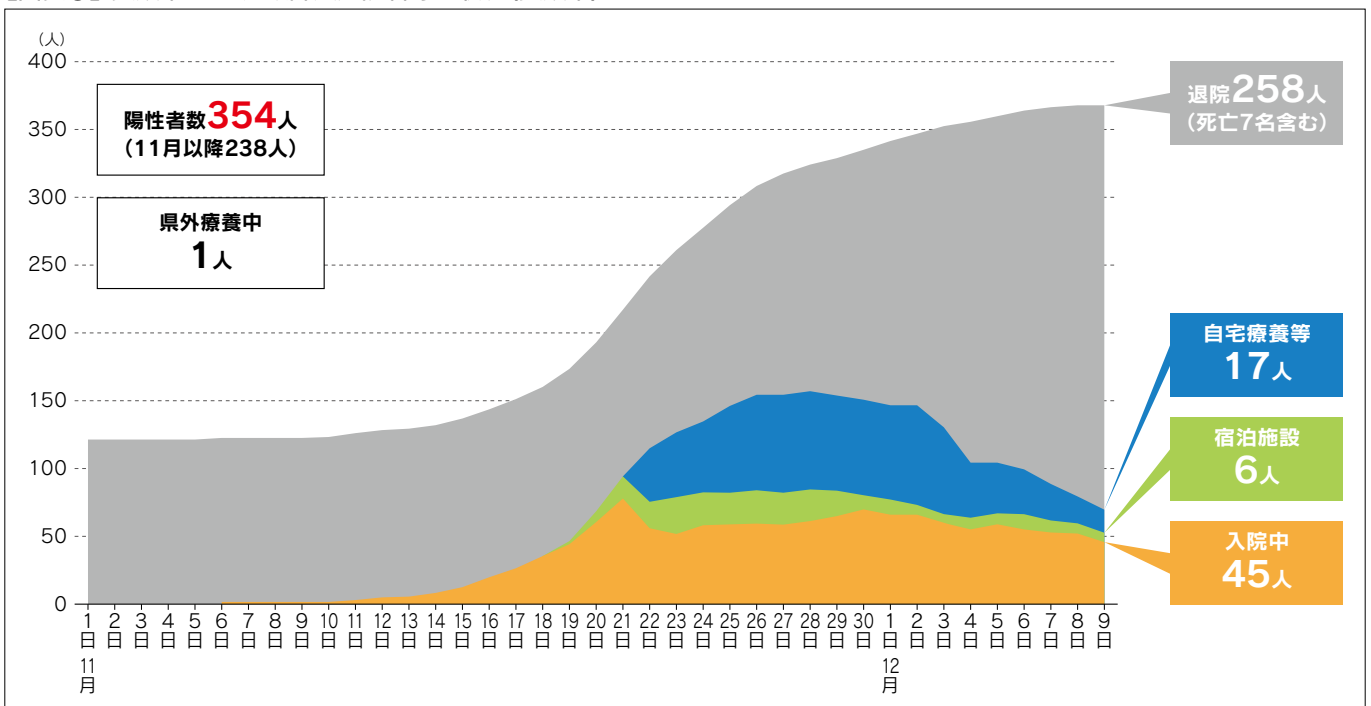
その後、発生していた6つのクラスターの囲い込みも完了し、一日に一人か二人程度にまで減りました。ただ、入院中の方は50人前後(図表②)で推移しており、医療機関に掛かる負担は減っていません。今後も、新規感染を抑えることが重要です。

(注1)愛媛県で独自に定めた感染状況に応じた警戒レベル。縮小期、警戒期、対策期の3段階あり、警戒期には県外や3密(密閉・密集・密接)の場への外出自粛、イベントなど開催の目安を当面50人以内までとするよう呼び掛けている。

【図表①】11月以降の新規陽性者数推移(愛媛県)



【図表②】愛媛県の11月以降入院退院者等の状況(愛媛県)



愛媛県の新型コロナウイルス感染状況に応じた警戒レベルと対策

要請対象	縮小期	警戒期	対策期
県民の行動要請	外出自粛は要請しない	県外や3密の場合への外出自粛	外出自粛(県外・県内問わず)
イベント等の開催目安	感染予防対策を徹底のうえで実施	当面、50人以内まで	人が集まることは推奨しない
事業者	県外の出張自粛は要請しないが、感染予防対策を徹底	感染拡大地域への出張の自粛	原則、県外への出張の自粛
休業要請	感染状況に応じて検討	条件を付して休業要請を緩和	業種を特定して休業要請
学校	開校・部活動も実施	開校するが授業内容や部活動等の制限	休業
県管理施設	感染予防対策を徹底のうえで開館	一定の条件のもとで開館	原則閉館
高齢者施設・医療機関等への面会等	感染防止対策を徹底のうえで面会可	自粛を要請	原則禁止

令和2年5月8日発表

▼最近では市町村を舞台にした映画も多数製作されています。故加戸前知事は、文科省出身だっただけにこういった面に敏感で、県が後押しして愛媛県を舞台にした映画「船を降りたら彼女の島」を、2003(平成15)年2月に公



シネマサンシャイン大街道の入り口(12月下旬)

▼昨年11月12日付けの愛媛新聞が、シネマサンシャイン大街道の本館を1月11日閉館を報じました。これで松山市の中心市街から大手映画館が無くなります。戦後、映画界は大盛況で、松山市内には20を超える映画館があったと聞きます。私が高校生の頃、1970年代には映画も斜陽になっていましたが、それでも6館はありました。私も映画が好きで、高校時代からよく観ています。三番町にあった松山銀映は、3本立てで入館料300円。安らぎの場所でした。市駅前にあったオリオン座では、ゴッド・ファーザーを観ました。昭和48年正月だったと思います。満員で後の方から立ったまま観ました。

開いています。主演は木村佳乃、大杉漣。ご覧になった方も多いのではないのでしょうか。県内市町も、宇和島市「海すずめ」、四国中央市「書道ガールズ!!」など続いています。砥部町にも地元出身の大森研一監督で製作された「未来へのかたち」があります。残念なことに公開はコロナ禍で延期。今年に持ち越されているようです。

▼シネマサンシャイン大街道の閉館は致し方ないと思いますが、映画が好きと言う方は大勢います。大型テレビやインターネットが普及した昨今、加えてコロナで密はご法度ですが、その場にいなければ味わえない雰囲気とか匂いがあります。何年先になるかわかりませんが、松山の中心街に同館が復活することを願っています。



私の本棚

晴走雨読

せいそううどく

『富士日記』(上・中・下)

著者：武田 百合子 出版：中公文庫

『富士日記』は、日本の日記文学の新境地をひらいたものとして一部の人に大変な人気があります。

著者の夫で作家の武田泰淳が、昭和38(1963)年に富士山の山麓に山小屋を建て、翌39年の晩春あたりから東京住まいの家族3人は、週の半分を山荘で過ごすようになります。日記

をつけはじめたいきさつを著者は上巻の冒頭で、「(泰淳から)『おれと代わるがわるメモしよう。それならつけるか?』などといわれて、日記がはじまった。」と、述懐しています。人に読まれることを意識して残されたものではなく、家族の思い出記録として書き残されたものでしたが、泰淳の死後、雑誌『海』の編集者のすすめで同誌に連載。昭和52(1977)年に本として出版されました。作家

である夫は、百合子夫人の類まれな文才を見抜いていたのでしょうか。あるいは嫉妬していたかもしれません。日記には、富士山麓の朝夕の自然の変化と一家の暮らしの様子を、ほぼ毎日つけています。地元の人たちとの交流もあります。欠かさないの



は、何を食べたか。その文章は簡潔自在。

2か所拾い出してみました。昭和41(1966)年元旦の記述、「快晴／8時半起きる。／南アールプス全部見える。はつきり見える。富士山も全部見える。いいお天気だ。／朝 お雑煮(豚肉、かき玉、ねぎ)、黒豆、だてまき、昆布まき、かまぼこ、酢ダコ。／花子はカルピス、主人と私はビールで、新年の挨拶をする。『明けましておめでとう。今年もどうぞよろしく』／昼頃、Wさん巡回……。昭和43年の夏の一日、「8月2日(金)くもり、時々晴／撫子の花が咲く。げんのしょうこも咲いている。紅い百合も咲いている。／雨は上がったが、からつとしない。主人、一日中草を刈る。早めに風呂をたてて主人の頭を洗う。真赤な入日となる。夜は霧。うずら豆を煮る。」

昭和51(1976)年まで続いた日記は、上・中・下巻それぞれ400ページを超える分量で一気に読み通せるものではありませんが、読み終えてすがすがしい気持ちになれる本です。年の初め、日記をつけようかという目標はさておき、一読をお勧めします。

愛媛県議会議員

松下行吉

まつした ゆきよし

〒791-2141 愛媛県伊予郡砥部町岩谷口 135
TEL 089-969-3605 FAX 089-969-3606
Email : matsushita31@iyo.ne.jp

<http://www.iyo.ne.jp/matsushita31/>

